

令和4年度 2学期始業式式辞

おはようございます。校長の橋本です。

まずは、2学期の始業式も残念ながら、このように放送を通じて皆さんに話しかける形となりました。新型コロナの新規感染者数はかなり減少に転じていますが依然として、コロナ感染対策に気が抜けない状況が続いています。ただ、昨年と同じように、このまま秋に向けて激減し、1月～再び増加に転じるという動きになれば、年間通して、ほぼ感染状況が予想できるようになります。今は、引き続き、感染しない、広げないという思いで、やれることはしっかりやってみましょう。

さて、43日前の7月20日、1学期の終業式で、私は、次のような話をしました。「今日で長かった1学期も最後の登校日となり、明日から、様々な意味で皆さんの人生を変える夏休みに入ります。この期間で大きく生活が崩れ、高校生活に戻れなくなる人、逆に大きな飛躍をとげ、やりたい自分に近づける人、考え方や行動次第で人生の大きな分岐点となる42日間となります。」という内容でした。

今日から始まる2学期が憂鬱な人は、たくさんいるでしょう。あなただけが憂鬱なのではなく、ほとんどの人が2、3日前から暗～い気分になり、昨夜は、そのピークを迎えたことと思います。あと10日間、あと20日間、夏休みが長ければいいのになあ、と考えてしまう人もあろうかと思いますが、何日あってもそれが終わる2、3日前、前日の夜、当日の朝は必ず訪れます。

「休み」や「オフ」というものは、終わりがあるから、期間が限定されているから、楽しく、充実した時間にしよう、となるのであって、永遠に夏休みなら不安でしかない時間になってしまはずです。

とはいえ、さきほど、1学期の終業式の話をしたが、この夏休みに、これからの自分、つまり自分の未来に向けて行動を起こせた人は、今日の日をさほど憂鬱な気分で迎えては、いないのではないかと思います。言い換えれば、自分の人生を攻撃的に、将来に向けて攻めていくモノを見つけている人は明日が、明後日が来るのが、夏休みが終わるのが、楽しみになります。例えば、9月の英語検定や情報処理検定合格に向けてしっかり準備をしてきた人、就職試験や進学に向けて準備をしてきた人、部活動では、秋の大きな大会に向けて準備を重ねてきた人、などは、今日は単なる通過点ではないのでしょうか。憂鬱などとは無縁で、今日が、明日が、それぞれの成果を発揮する日が、結果が出る日が、楽しみという気持ちで今、いるのではないのでしょうか。逆に自分に対して消極的で、逃げて逃げて逃げ回り、守りに入っている人は、夏休みの終わりも、今日も、明日も明後日も、嫌で嫌でたまらないと思います。

「夏休みの過ごし方や考え方が人生の大きな分岐点となることがありますよ」、という話をしましたが、実は、明日も、今日も、今も、大なり小なり、我々は常に人生の分岐点に立っています。「有意義な夏休みを過ごせなかったな」と思っている人は、その自覚を持たたこと、気づけたことで、すでに大きな分岐点で自分にとってプラスの道を歩き始めていると思います。

今、皆さんに言いたいのは、今日から、いや、今から自分の未来に向かって、攻めて攻めて攻めまくって下さい。未来に向かって攻撃的になれば、変わっていく自分が楽しみになり、明日が、明後日が来るのが待ち遠しく、楽しみになります。逃げ回り、守りに入ってしまう人は、いつまでも切り替えができず、夏休みを引きずり、今に不満を持ち、しんどい日々を過ごすことになります。

それでは、なかなか気持ちが乗ってこない人がほとんどだと思いますが、無理にアクセルを踏まず、ゆっくりと、ぼちぼちと、歩き始めてください。そして攻めるための攻撃態勢を整えてください。

最後に3年生の皆さんにとって、2学期は卒業後の自分を定める、事実上高校生活の集大成の学期です。努力する時間も限られてきましたが、最後まで「人事を尽くし」、そして、よい「天命がくだる」ことを願っています。

以上、令和4年度2学期始業式の式辞とします。